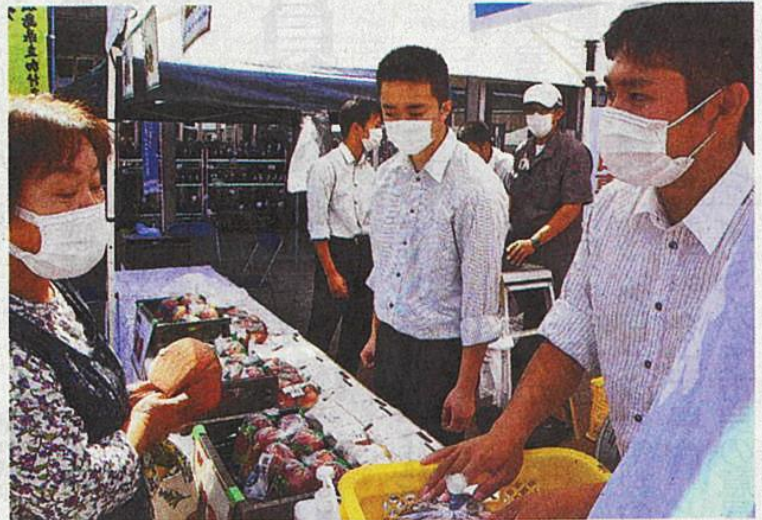


生徒「リンゴ活動」本格化

加計高芸北分校 緊急事態宣言解除で



道の駅でリンゴを売り込む加計高芸北分校の生徒

販売実習や合同学習再開

北広島町の加計高芸北分校は、新型コロナウイルスの県内での緊急事態宣言解除を受け、授業の一環で栽培するリンゴを使った活動を本格化させている。町内の道の駅で初めて販売実習をしたほか、広島北特別支援学校（広島市安佐北区）

との合同学習も再開した。道の駅「舞ロードIC千代田」では10月上旬、3年生5人が販売実習をした。校内の15坪で育てる14品種のうち、収穫時期の早い3品種が2個入った250セツトを用意。生徒がデザインしたラベルを貼ったリン

ゴを並べ「僕たちの育てたリンゴはいかがですか」と売り込み、ほぼ完売した。

同校では農業の授業を選択した2、3年生計11人がリンゴの栽培や販売について学ぶ。例年は県庁などで販売実習をしてきたが、昨年と今年は新型コロナウイルスの影響で中止。できることをしようと、町内の道の駅での実習を決めた。

広島北特別支援学校との

※記事の掲載にあたっては、

中国新聞社の許可を

いただいています。

交流は8年前から続く。同校の生徒を招いて6月に予定していたリンゴの袋かけ作業は中止になったが、10月上旬の収穫体験は開くことができた。両方に参加した芸北分校3年広藤魁人さん(18)は「道の駅の実習では、品種の特徴などを説明する難しさを感じた。コロナ禍でも工夫して芸北分校のリンゴを広めたい」と話していた。(与倉康広)